

# 各教科等における 「令和2年度の重点」

## 「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

新学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されました。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、各教科等の学習を「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、こうしたことを踏まえ、「確かな学力」において目指す子供を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、その具体的な姿を「阿波っ子 学びのススメ10か条」に示し、「豊かな心」・「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿の実現を図ります。

### 育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 生きて働く知識・技能
- 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等
- 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等

### すべての教科等にわたる国語力を生かした授業改善のポイント (国語力向上タスクフォースの提案から)

#### 本県の児童生徒に身に付けさせたい力

- ・ 文章の中心的部分と付加的部分、問題提起の部分と具体例、まとめの部分などを読み分けて要旨を捉えたり、問いの意図やその解決に至る経緯を正しく理解したりする力
- ・ 目的に応じて必要な情報を集めるための見通しをもって臨み、根拠として取り上げている内容が適切であるかどうかを吟味したり、また、その根拠が適切であるか理由が明確になるように自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりする力
- ・ 相手の意図を捉えたりしながら自分の考えを明確にもち、その考えを深めるために、場に合った適切な言葉遣いで話したり、書いたりしながら、互いに伝え合う力

正確に読み取らせるには！！

○ 何が書かれているかを的確に捉えよう！



主体的・対話的で深い学びの視点からは！！

- 自分の思いや考えを「書く」場面を増やそう！
- 自分の思いや考えを深めるために他者の意見を取り入れる場面を増やそう！
- 学んだことを振り返る場面を工夫しよう！

深い学びにつながる三つの発問は！！

- 別の言葉に言い換えてみよう。
- 比べてみよう。関連付けてみよう。
- そう考えた根拠と理由は何だろう。



## 小学校の各教科等の重点

### 目指す子供の姿

- 自分の思いや願いの実現に向けて、対象への働きかけや人との関わり方などを自分なりに考え、主体的に活動することができる。
- 活動や体験を通して得た気づきを言葉や絵などで表現し、他者と伝え合うことにより、気づきの質を高めることができる。
- 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、学んだことを生活に生かすことができる。

### 目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

#### ①学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象に直接関わる学習活動の充実

- ◇身近な人や社会、自然と直接関わる活動を重視し、試行錯誤したり納得のいくまで追究したりできる体験活動の充実を図る。
- ◇各教科等との関連を積極的に図るとともに、幼児期における学びとの円滑な接続を図る。

#### ②身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、気づきの質を高める学習活動の充実

- ◇体験の中で気付いたことを多様な表現方法で表現する場を設定する。
- ◇自己の考えを他者と伝え合い交流する場を設定し、自他の共通点や相違点を見付けさせる。
- ◇気付いたことを基に考えることができるようにするため、「見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫する」などの多様な学習活動を行う。

#### ③自己の学びを振り返る場の充実

- ◇学習のねらいを踏まえたまとめや振り返りを行い、児童自らの学びを自覚化させ、自分自身や自分の生活について考える場面を設定する。